

令和 7 年度

「運営に関する計画」 中間評価

大阪市立福小学校

令和 7 年 1 1 月

大阪市立福小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の児童は、素直で明るく、学年を越えて仲良く交流することができる。しかし、時には感情を言葉でうまく表現できなかったり、集団に入りづらかったり、友達の気持ちを考えずに行動してしまったりする児童もいる。そのため、どの児童も安心して活動できる心の居場所となるたてわり班を中心に据えた「学校集団作り」に継続して取り組んでいる。そして、子ども達の自尊感情・自己有用感を高めることができる取組みを工夫し、お互いのよいところを認め合い仲間を信頼できることを目指している。

学力面では、令和4年度「全国学力・学習状況調査」において、国語科は対大阪市の平均正答率が11ポイント、算数科は1ポイント下回っていた。令和6年度は、国語科は対大阪市の平均正答率が6ポイント、算数科は3ポイント下回っている。

国語科は令和4年度を5ポイント上回ってきているが、算数科は2ポイント下回っている現状である。

本校においては、国語科と算数科の学力の向上が大きな課題であるとする。国語科の課題は、話す力・書く力をつけるためにも、読解力の向上に力を入れる必要がある。更に算数科でも基礎・基本の計算演習だけでなく、問題を読んで理解する力を身に付ける必要がある。そのためには個に応じたきめ細やかな指導を工夫していく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、92%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、45%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における国語の平均正答率の対全国比を1.00にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の80%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2（1年間の時間外勤務時間が720時間を超えないようにすること、1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとすること、1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにすること、連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えないようにすること）を満たす教職員の割合を、令和7年度末に100%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、86%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、82%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、44%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の83%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を100%にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立福小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○ 小学校学力経年調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、86%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、82%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1. 安全・安心な教育環境の実現】 各学級で、いじめにアンケートを毎月一回実施する。また、日頃から事象に応じて、いじめについて考える機会を設ける。 ----- 指標 ・ 児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。	A
取組内容②【1. 安全・安心な教育環境の実現】 看護当番の担当者や委員会活動を通して、安全な学校生活の過ごし方について呼びかける。 ----- 指標 ・ 児童アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、86%以上にする。	A
取組内容③【2. 豊かな心の育成】 たてわり班を活用し、異学年交流の機会を増やす。 ----- 指標 ・ 月2回以上たてわり班での児童集会を行う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 毎日の心の天気、毎月のいじめアンケートを実施し、出てきた事案についてすぐに聞き取り、早期対応・早期解決に努めた。また、日々の教育活動の中で児童の観察を行い、その中で児童や集団の様子を把握するようにしている。指標に対しての前期の児童のアンケートの結果は90%と目標を上回った。 ② 看護当番、委員会活動を通して安全な学校生活の過ごし方について指導している。アンケート結果は、95%と目標を大きく上回った。	

- ③ 縦割り班だけではなく、ペア学年での授業の取り組み、なかよしタイム等異学年交流をたくさん行うことができた。また、高学年が低学年と休み時間に多く関わりをもってくれていることで、相互に優しい気持ちが育ってきている。また、高学年が低学年を思いやり、低学年に慕われることで自己有用感（自尊感情）を高めることにつながっている。児童アンケート「たてわり班活動は楽しい」と回答する児童が 90%であった。

後期への改善点

- ① 継続して、心の天気、いじめアンケートを常時確認し、児童間のトラブル等、早期対応、早期解決に努める。
- ② 児童の実態や必要に応じて、学校のきまりを見直していく。
- ③ 継続して、たてわり班を活用し、異学年交流の取組みを進めていく。

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、44%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【4. 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>各教科や活動において、児童が互いの考えや思いを交流し、学び合える学習形態を工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、44%以上にする。 	B
<p>取組内容②【4. 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>今年度の研究教科を国語科とし、言語事項の基礎基本の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間に全体研修 1 回、授業研究会を 3 回以上実施する。 	B
<p>取組内容③【5. 健やかな体の育成】</p> <p>運動集会などを通して、たてわり班や学年対抗で運動に親しめるイベントを計画・実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。 	C
<p>取組内容④【5. 健やかな体の育成】</p> <p>児童の規則正しい生活習慣が身に付くように、子どもの発達段階に応じた指導を実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「けんこうアンケート」において規則正しい生活を身に付けている児童の割合について、70%以上を維持する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 話し合う機会を積極的に持つこと、話し合う際の話型・形態・ルール等を指導すること、タブレット等のＩＣＴ機器を活用することなどで、各学年の発達段階に応じた話し合い活動が行われている。
- ② 校内研究教科を国語科とした研究授業を３回（低・中・高それぞれの学年部）で実施予定である。また、それに向けた研修会は実施済みである。
- ③ 縦割り班活動、児童集会、体育科の授業等で、異学年交流などの取組みは実施したものの、異常気象により暑さ指数が「危険」の日が多く、外で遊ぶ機会が少なくなったため、児童アンケート結果には最も肯定的な回答の割合が 76%と目標を下回ったと考えられる。
- ④ 第一回の健康アンケートにおいて「毎日同じぐらいの時間に寝ていますか」「毎日同じぐらいの時間に起きていますか」「毎日朝ごはんを食べていますか」のすべてを肯定的に回答している児童の割合は 73%以上だった。

後期への改善点

- ① 今後も継続して各学年の発達段階に応じた話し合い活動を行っていく。
- ② 研究授業に向けて各学年部で取り組んでいく。
- ③ 縦割り班活動を継続して行う。また、児童集会でドッジボール大会を実施したり、健康委員会の取組みで鉄棒週間やかけあし週間、なわとび週間を実施したりする予定である。これらの取組みを通して運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きになるように働きかけるようにする。
- ④ 後期に学校保健委員会の取組みや保健の授業等を実施し、更なる健康習慣の定着を図る取組みを行う。

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の83%以上にする。</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2（1年間の時間外勤務時間が720時間を超えないようにすること、1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとすること、1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにすること、連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えないようにすること）を満たす教職員の割合を、令和7年度末に100%にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【6. 教育DXの推進】</p> <p>心の天気の入力が習慣になっていない児童に入力を促すために校内放送を流し、一斉に入力する時間を確保する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間の授業日の83%以上にする 	A
<p>取組内容②【7. 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>前期後期制に移行し、教員の仕事を内容を精選し児童と向き合う時間を増やし、またワークライフバランスを整える。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期始めの五日間の短縮期間を設ける。 「ゆとりの日」を月に2回設定する。 長期休業中は、学校閉庁日を3日以上設定する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 心の天気の入力が定着してきている。また、朝の学習時間や教科領域で内容に応じてタブレット端末を活用することができてきている。</p> <p>② 短縮期間を設けることで、児童や保護者とゆとりを持って接することができた。計画通り指標に沿った取り組みができた。</p>	
後期への改善点	
<p>① 教職員の声掛けや児童の放送によって、心の天気の入力が全児童に浸透している。今後、さらにタブレットを活用していくために、使い方のルールの徹底すること、教員がタブレットの活用法を学び、児童が授業中に活用できる環境を整えていくことが必要である。</p> <p>② 時間外勤務については、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を超える教職員はいない。この取組みを継続して行っていくとともに、各教職員の業務量を点検し、偏りがないようにしていくことが必要である。</p>	

